

『あめんぼのうた』

北原白秋

あめんぼ赤いなあいうえお ^う ^も 浮き藻に小エビも泳いでる

柿の木栗の木かきくけこ キツツキコツコツ枯れけやき

^さ ^さ ^げ 大角豆に酢をかけさしすせそ ^う ^お その魚 浅瀬で刺しました

立ちましょラツパでたちつてと トテテタッタと飛び立った

ナメクジのろのろなにぬねの ^{なん} ^ど 納戸にぬめってなにねばる

鳩ポッポほろほろはひふへほ ^ひ ^な ^た 日向のお部屋にや笛を吹く

まいまいネジ巻きまみむめも 梅の実落ちても見もしまい

焼き栗ゆで栗やいゆえよ ^や ^ま ^だ ^ひ 山田に灯のつく宵の家 ^よ ^い ^い ^え

^ら ^い ^ち ^{ょう} 雷鳥寒かろらりるれろ ^れ ^ん ^げ 蓮華が咲いたら ^る ^り 瑠璃の鳥

わいわいわっしょいわあうゑを 植木屋 ^い ^ど ^が 井戸換えお祭りだ

雨ニモマケズ 風ニモマケズ
雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ
丈夫ナカラダヲモチ
よく 慾ハナク 決シテいか瞋ラズ
イツモシズカニワラツテキル
一日ニ玄米四合ト
味噌ト少シノ野菜ヲタベ
アラユルコトヲ
ジブンヲカンチャウニ入レズニ
ヨクミキキシワカリ
ソシテワスレズ
野原ノ松ノ林ノかげ蔭ノ
小サナかや萱ブキノ小屋ニイテ
東ニ病氣ノコドモアレバ
行ツテ看病シテヤリ
西ニツカレタ母たばアレバ
行ツテソノお稲ノ東ヲ負ヒ
南ニ死ニサウナ人アレバ
行ツテコハガラナクテモイイトイヒ
北ニケンクワヤソショウガアレバ
ツマラナイカラヤメロトイヒ
ヒデリノトキハナミダヲナガシ
サムサノナツハオロオロアルキ
ミンナニデクノボートヨバレ
ホメラレモセズ
クニモサレズ
サウイフモノニ
ワタシハナリタイ

じゅげむ じゅげむ ごこう すき
寿限無 寿限無 五劫の擦り切れ

かいじりすいぎよ すいぎょうまつ うんらいまつ ふうらいまつ
海砂利水魚の水行末 雲来末 風来末

くね ところ す ところ
食う寝る処に住む処

やぶ こうじ
藪ら柑子のぶらこうじ

パイポパイポ パイポのシューリンガン

シューリンガンのグーリンダイ

グーリンダイのポンポコピーのポンポコナーの

ちょうきゅうめい ちょうすけ
長久命の長助

ういろうり
外郎売

せつしやおやかた もう たちあ うち ぞんじ かた へど
拙者親方と申すは、お立合いの中にご存知のお方もござりましょうが、お江戸
をた発にじゅうりかみがたって二十里上方、相州小田原一色町そうしゅうおだわらいっしまちをおす過ぎなされて、青物町あおもちようを登りへ
おいでなされるれば、欄干橋虎屋藤右衛門らんかんばしとらやとうえもん、只今は剃髪ただいまいたして円齋ていはつと名えんさい乗りま
する。

がんちょう おおつごもり て くすり むかし ちん くに とうじんういろ
元朝より大晦日までお手に入れまするこの薬は、昔、陳の国の唐人外郎とい
う人、わが朝ちょうへ来きたり、帝みかどへ参内さんだいの折おりからこの薬くすりを深ふかく籠こめ置おき、用もちゆる時とき
は一粒いちりゅうずつ冠かんむりの隙間すきまより取り出とす。依いってその名なを帝みかどより「透頂香とうちんこう」とた
まわる。即すなわち文字もんじには「頂いたき、透すく、香におい」と書かいて「とうちん香こう」と申
す。